第５章　地域のためにできること

この章では、≪互いに支え合う地域≫、≪ふれあい・交流のある地域≫、≪一人ひとりを認め合える地域≫を実現することを目指し、地域のためにできることについて、実際に地域で取り組まれている事例を交えながらご紹介します。

ひとりで簡単にできそうなことから、家族や友達とできそうなこと、ご近所に声をかけてできそうなことなどを掲載してみました（計画書本文一部抜粋）。

【事例１】
ラジオ体操、花壇づくり、除草作業

【事例２】
子育て支援ネットワーク佐倉子育て応援団

【事例３】
ご近所での助け合い活動「なごみ会」

【事例４】
「朝のあいさつ・声かけ運動」

【事例５】
染井野ふれあいサロン

【事例６】
台町子ども見守り隊／いきいきクラブたぐり

【事例７】
「ちゃれんじどフィットネスクラブ」

平成30年６月～８月に行った、活動事例の「その後」の調査結果の主なものを、下線で表示

【事例１】　（当初調査日：平成２６年８月２０日）

事例名	ラジオ体操、花壇づくり、除草作業
地域	西志津３丁目－１－10　西志津スポーツ等多目的広場
実施主体	西志津スポーツ広場の会（会長　高橋　宗夫）
活動要約	子供からお年寄りまで、だれもが参加できる朝の健康ラジオ体操
主な分野	「健康づくり」「憩い」「交流」
主な関係者	西志津小学校区まちづくり協議会、西志津地区社協等

■活動のきっかけ・経緯

○西志津スポーツ等多目的施設用地（西志津スポーツ広場）は、防災機能を有するスポーツ複合施設として多目的利用を図ることを施策の基本とし、平成12年３月に佐倉市が住宅都市整備公団より取得した。

○その後、第１次整備計画に基づき、グランド、ジョギングコース、駐車場が整備された。また、草刈り等一般的な管理は市が行い、その他の運用管理を自治会等地元に依頼することとなった。

○地元に於いては、西志津連絡長会議が中心となり、平成13年５月に西志津スポーツ等広場地域協議会（後に、西志津の会）が発足し、市と協力して管理運営を行うこととなった。

○朝のラジオ体操は、平成15年７月に夏休み中の子どもの行事として開始し、その後も今日に至るまで続けている。

○平成18年５月、健康さくら21推進記念「NHK特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会」が開催され、約2,200名が参加した。

○平成18年から、佐倉市民憲章推進協議会から助成事業として認定される。

○平成21年７月、ラジオ体操開始から述べ参加者20万人を突破し、８月の祝賀会では市長が祝辞を述べる。

○平成25年７月、ラジオ体操開始から述べ参加者40万人を突破。８月に開始10年40万人達成記念式を開催。

■活動内容

○１年365日（よほどの荒天時を除き）、毎朝６時30分からNHKのラジオ放送に合わせてラジオ体操を行っている。

○地域住民の誰もが参加できる活動として、地域に根付いており、平成25年は、年間活動日数334日に延べ61,448人が参加した（平均人数／日・184人／日）。

○平成15年にはじめた朝の健康ラジオ体操はまもなく15年をむかえ地域に根付いてきた。

朝の健康ラジオ体操は１日の生活のリズムとして、健康生活にはとても大事。おはよう、寒いね、暑いね、お元気など見知らぬ人同士もいつの間にか挨拶を交わすようになり、交流の場ともなっている。

交代で朝礼台に立ってリードする人、参加者を数える人、それぞれ６名（１週間ずつ担当）を中心

に、参加者は年間約 55,000 人（平均 178 人／日）を数える。

平成 30 年６月 30 日現在の累積参加者数は 661,924 人となり、６年後には 100 万人に到達する見込み。その時はＮＨＫに来てもらいたい。

○スポーツ広場の会では、周囲の河津桜の手入れとともに、広場外周（約 700 メートル）に花壇の整備を行っている（広場一周は一昨年漸く完成した）。現在の協力者は約 24 名。

⇒マリーゴールド、秋桜、ラベンダー等、数えきれないほどの種類が植えられている。

⇒作業は有志の協力により、毎週火曜日、ラジオ体操終了後に行っている。

⇒植え込みに出てくる草を取り除くのはとても大変な作業で、週一の作業ではとても間に合わず、体操の前から、また、終わった後も懸命に除草作業をする方も数人いる。

⇒広場内の遊歩道を歩く人も外周道路を通る人も、楽しんで頂いている。

⇒乾燥時には水やりがとても大変で、今は皆が持ち寄った４リットルのペットボトル約 170 本で水やりをしているが、運搬がとても大変。

⇒四季折々の草花が綺麗に咲いたときはとてもうれしく、作業の甲斐が感じられる。

⇒通りがかりの人から綺麗だね、いつもありがとう、と声をかけられた時が報われるとき。

○内部にある一周 500 メートルの遊歩道の内側（約 21,000 平方メートル）の草刈りを、４月の後半から 10 月の終わりまで、約３週間ごとに（年間約 12 回）除草作業を実施している。

⇒作業は佐倉市が用意してくれた自動草刈り機で６～７人で行っている。

⇒天気の良い日を選んで、午前中は除草、午後は集草を行う。

⇒集草のためには天気が非常に影響する。乾燥した草は作業がやりやすく、仕事が進む。湿ったり濡れていると仕事がとても大変。

⇒刈り取った草は集積場所を定めて置き、後で業者に処理してもらっている。

⇒遊歩道の外側、桜の木の下及び道路との傾斜部分は、佐倉市の指定の専門業者が行う。

⇒除草後の広場は会場が広くなったような気分になる。

○広場周辺の 70 本の河津桜が植樹されてから 20 年を迎え、春一番の花見の場所として知名度も浸透してきた。

スポーツ広場の会では、地域の自治会協議会、西志津地区社会福祉協議会、西志津小学校区まちづくり協議会と協賛して、西志津河津桜まつり実行委員会を組織して、地域の交流の場として模擬店、神輿、イベント等を実施している。

来場者は昨年の実績では２日間で、約 5,000 人を超えた。

スポーツ広場の会は延べ約 50 人のメンバーが、会場設営、警備、ごみ処理などに協力している。

○スポーツ広場の会では（西志津スポーツ等多目的広場）に防災トイレも設置され、この地域の一時避難場所として指定を受けているので、いざとなった時のために普段から手入れをしている。

また、通常はグラウンド・ゴルフ、キャッチボール、ボールけり等、地域の人々憩いの場として利用されている。

■ポイント・工夫している点

〇夏休み中は、近隣の子ども達が集まる場となるため、郵便局からカードを提供してもらい、参加した日はカードにスタンプを押すシステムにしている。
〇参加してきた子どもに朝礼台に登壇してもらい、体操をしてもらう。最初は、人前に出るのをためらっている子も、段々積極的になり、自分から登壇するようになる。
〇夏休み最終日に参加した子どもたちには、お菓子のプレゼントをしている。また、最終日には、市長、西志津小学校の校長・教頭も来場する。
〇毎朝、顔を合わせる中で、挨拶が交わされる関係性が構築される。ラジオ体操以外の場で会っても挨拶が交わされるようになる。
〇大抵の参加者は、いつも同じ場所で体操を行うので、いつも来ている人がいないとなると気づくし、気になる。そうするとしばらく入院していたとか、家族に不幸があったこと等に気づいたりする。
〇小学生の頃に参加していた子が高校生になって、スタッフには分からなくても、向こうからいまだに挨拶してくれたりもする。
〇ラジオ体操に参加するだけでなく、体操の前後に散歩したり運動している人も多い。医療費の削減に関して、多大な貢献をしているのではと自負している。
〇誰でも、一人でも参加できる。余り人と話をしたくない人でも参加できるし、参加することを通して、友達作りに繋がることもある。何の制約もない、自由な活動として誰でも受け入れている。

――――――以下は、活動事例の「その後」の調査内容――――――

■事例調査後の新たな動き

〇上記「活動内容」の項目に記載。

■地域への活動の輪の広がり

〇上記「活動内容」の項目に記載。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

〇下記「課題と今後の展開」の項目に記載。

■関係機関・協力団体・連携団体など

〇上記「活動内容」の項目に記載。

■課題と今後の展開

〇これからは草刈りも地域で行うことになるので、座れる丸太や花壇の整備なども知恵を出し合って考えて行きたい。
〇この地域は行政に何でもやってくれというスタンスではない。地域住民が自分たちの身体、知恵を

使って活動を展開していきたい。
○少子高齢化時代を迎え、お互いに自由な時間を大切にし、人と人とのつながりを大事にしてゆくには人と話すこと、体を動かすこと、リズムに合わせた生活をすることを目標に、引きこもりがちの高齢者に朝早く起きて一人でも多くラジオ体操に参加してもらえるように啓蒙してゆきたい。

平成30年６月～８月に行った、活動事例の「その後」の調査結果の主なものを、下線で表示

【事例２】　（当初調査日：平成２６年８月２０日）

事例名	子育て支援ネットワーク佐倉子育て応援団
地域	市内全体
実施主体	佐倉子育て応援団（代表　古賀　千恵子）
活動要約	子育てにかかわる団体・個人のネットワーク
主な分野	子育て中の親、支援者のつながり
主な関係者	ＮＰＯ子どものまち等

■活動のきっかけ・経緯

○多胎児サークルのお手伝いを始めたことがきっかけとなり、地域の社協の方やボランティアの方とつながりができ、少しずつ月に一度集まるようなサークルを始めた。

○平成１５年当時の佐倉市生涯学習課が企画した“子育てリーダー養成講座”を受講したメンバーが、その後もつながりを持とう！と立ち上げたＮＰＯ・子育てサークル・個人のゆるやか～なネットワーク。

○その後、定期的に集まり「佐倉子育てカレンダー」を作り始めたことが、今の活動につながる。

■活動内容

○NPO 子どものまちが主催している多世代交流広場「えんがわカフェ」もネットワークに関係している。

①会員同士メーリングリストでの情報共有＆定例会

②月一回の子育てカレンダー発行

③年に１回学習会や、子育てフォーラムを開催するなど

■ポイント・工夫している点

○個人や子育て支援関係の団体で構成される、緩やかなネットワークとして活動している。

○団体と個人の集まりなので、関係が難しくなったときもあった。自分の子供もまだ小さかったし、活動が負担になってくると関係も悪くなってしまう。大変だと思うことはやめて、できることをやるしかないかなと思った。

○そのスタンスがあるから自分も続けられるし、周りの人も一緒に続けられるし、新しい人も入ってきやすい。義務的になったり、辛いと思ってしまうと続けられない。あくまで自身の活動として行っているものだから、自分が楽しいと思ってできることをやろうと。周りの人達も同じスタンスで、みんなで協力しながらやっていこうよと思っている。

○子どもの経験も重視している。子どもが小さいときから世代間交流のような活動に参加していると、大きくなっても自発的にできるように育つのではと思う。小さいときの経験というのは大事だと感じる。

○それぞれの団体の活動もあり、さらに、子育てネットワークで何か企画しようとすると、疲弊して

しまうので、ゆるやかなつながりを目指しており、上記が主の活動。
○子育てカレンダーは作成を始めてから15年。ＮＰＯ・子育てサークルなど応援団加入団体の活動を毎月一つにまとめた子育てカレンダー。子育て中、なんとなく感じる孤立感。そんな経験者達だからこそ、子どもと出かけられる場所を広く紹介しようと、保育園の園開放や、児童センターのイベントなども掲載している。
○公共施設だけでなく、ボランティアで配ってくださる方の伺える範囲の小児科病院や産婦人科、薬局にもカレンダーを配布している。
○メーリングリストを活用し、団体の活動予定などを配信し、周知、活動協力などを呼びかけている。
※個人的には、この子育てネットワーク活動で知り合ったＮＰＯこどものまちの事業【ミニさくら】（サポーター15年）や、【えんがわカフェ】（スタート時から８年スタッフ）をしている。

――――――以下は、活動事例の「その後」の調査内容――――――

■事例調査後の新たな動き

○子育てカレンダーに掲載してほしいという団体があり、６団体ほど新たに加わった。
○子育てサークルを立ち上げる人は少ないが、＜森のようちえん＞（自主保育活動）が入会。微力ながら、若いママたちの活動を応援できたらと思う。

■地域への活動の輪の広がり

○子育て中、子育てカレンダーを見て、子どもと遊びに行くことができ、とても助かった、と感謝していただくことがある。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

○毎月発行しているので、子育てカレンダーを通して団体を認知していただくことが多い。
　子育てカレンダーへの掲載を希望される方は、子育てカレンダーに掲載されているメールアドレスにご連絡ください。団体の規約などに賛同していただき入会。
　団体の活動、イベント等情報いただければカレンダーへの掲載可能です。
　個人で入会ご希望の方も、同じ流れです。
　子育てカレンダーの入力など、お手伝いいただける方は常時募集中です。

■関係機関・協力団体・連携団体など

○市内ＮＰＯ団体（ＮＰＯこどものまち　ＮＰＯ佐倉こどもステーション　ＮＰＯ法人さくらの咲く丘など）
　・吉見光の子保育園　地域子育て支援センターノア　・親子でスマイルサークル
　・佐倉でんぱた舎・風の村さくら冒険基地・まあるい会・佐倉ラボ・人づくり街づくり環境づくり　たつのこむら　・明日の種・ＥＤＥＮ　・印旛沼探検隊・Ｐｌｕｓ　Ｐｌｕｓ・さくラン

ド
・江原台おもちゃ工房・みどりネット・自主保育さくらんぼ・おひさま食堂
・アトリエそう・わーくす　・雨上がり工房　・モモの広場　など。

■課題と今後の展開

【当初調査時内容】
〇子育てについて、お互いに抱えているものが同じで、わかるものどうしの悩みの共有を大事にしていきたい。
〇もう少し気楽に付き合える近所付き合い、近所同士の声掛けみたいなものがあれば、子供も自然に幸せを感じられる地域になるかなと感じる。
〇子供を連れて歩いていて、「あらっ可愛い」と言ってもらえるだけで、散歩に出て良かったなと思えるところがあったりする。その地域全体が子供を明るく見守ってくれているのがあると、子育てもがんばれるというのもあると思う。
〇お父さんが積極的に子育てにかかわって、地域にもかかわってもらって、子供を育てる人も楽しいし、周りの人も小さな子供が地域にいるから笑顔をもらえる。そういった繋がりが広がっていければ良い。
〇自分の歩いていける範囲内にコミュニティの場があって、買い物に行くついでに挨拶やお話ができたり、子供の遊ぶ場があったりという、人と人との関係が豊かになっていく地域がこれから求められていくと思う。

【平成30年調査時内容：３～４年前（当時)】
〇子育てネットワークが立ち上がった時は子育てサークルがいくつかあったが、親が自主的に集まって活動するサークル自体がなくなってきている。
〇私たちが受講した子育てリーダー養成講座は、連続10回、保育があり、親同士や子育ての先輩ママとの交流の好機となったと思うが、今は、そうした保育付きの講座があまりないように感じる。このときに出会った方々との交流は続いており、悩んだ時の相談相手にもなっている。

【平成30年現在】
①会員同士メーリングリストでの情報共有＆定例会について
　新たに加わった団体もあり、団体や、個人の活動をＭＬ（メーリングリスト）などで情報共有を継続。
②月１回の子育てカレンダー発行
　15年経ち、設立当時のメンバーの、当時未就園児だった子どもも大きく成長し、子育て真っ只中の子育て当事者メンバーは＜森のようちえん＞（自主保育活動)。
　設立当初のメンバーは、それぞれ常勤の仕事に就いていたり、環境が変化し、子育てカレンダーを続けることの負担感を感じることがある。

15 年前と比較すると、携帯電話等とりまく環境が変化している。新聞を取っていない方もいるし、市の広報を見ない方もいる。子育てカレンダーに代わって、登録した人に地域の子育てイベントなどを、ネット等（例：子育てアプリ）で情報がいきわたるよう期待している。

③年に１回学習会や、子育てフォーラムを開催することについて

子育てに関わる学習会を年に１回だが企画しており、会員外の参加も可能。講座の際には、保育をつけている。こういう講座が聞きたかった！と、申し込んでこられる方もいる。子育て中に、子育てについて学ぶ機会を持つことは重要だと感じるが、保育者の確保や保育の場所などを考慮すると、多くの参加者を受け入れることはできない。

平成30年6月～8月に行った、活動事例の「その後」の調査結果の主なものを、下線で表示

【事例３】　（当初調査日：平成２６年８月２７日）

事例名	ご近所での助け合い活動「なごみ会」
地域	栄町
実施主体	なごみ会（会長　高岡　良子）
活動要約	ご近所の有志による見守り、助け合い活動
主な分野	「地域における支え合い・助け合い」
主な関係者	栄町町内会、子ども会、民生委員・児童委員等

■活動のきっかけ・経緯

○栄町町内会の有志により、住み慣れた町で、みんな仲良く助け合い・支え合いながら、この町に住んでよかったと言えるような町をみんなで築いていくことを目的とし、平成18年3月に発会式を行って今年で13年目になる。

○最初は、毎回テーマを設定し、合唱・いろいろなゲーム・折り紙・軽い体操等を実施していたが、趣味趣向が異なることから、その後はテーマを設定せず、月１回集会所にて、サロン形式で開催している。

○平成29年3月から、アコーディオン奏者の先生をお迎えし、年6回伴奏に合わせて大きな声を出す喜びを楽しんでいる。他の月は、サロン形式でご近所同士の情報交換やおしゃべりをし、リフレッシュするなど「なごみ」の活動を展開している。

⇒活動に楽しめるものをということで、アコーディオン奏者の先生をお迎えすることになった。ひとり暮らしの方は、１日誰とも話さない日がある。声は出さなければ出なくなることから、アコーディオンに合わせて合唱することが、最良と考えた。

■活動内容

○平常月は月１回集まり、サロン形式でお茶を飲みながら、ご近所同士の見守りや情報交換に役立てている。

○毎回200円の会費（茶菓子代）、年会費はなし。

⇒年会費2,400円、年6回アコーディオンのある月は、別に300円。

○年6回は、「歌声喫茶」を開催し、アコーディオンの伴奏で合唱を楽しんでいる。

○町内会、子ども会と連携し地域交流として、「世代間交流会」を実施している。

○ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等に「声かけ」・要望により「話し相手」・「相談ごと」等に携わり、必要とあれば適切な窓口へ繋げている。

○高齢者世帯への支援として、外回りの片付け及び除草等を実施した。

○家の建て替えに伴う引っ越しで荷物整理に困っていたら、なごみ会の仲間が荷物の整理やゴミ出しのお手伝いをしてくれた。

■ポイント・工夫している点

○なごみ会での付き合いは、普段のご近所での見守り、支え合いにも役立てている。

○ご近所の見守りということでは、普段から見守っていたひとり暮らし高齢者が結果的に亡くなっていたが、早期発見につながったケースもある。
○参加者は、月１回の定例会を楽しみにしており、日々の生活のモチベーション維持にも効果は大きい。
⇒今、支える側であっても、いずれ支えられる側になるという意識が芽生えてくる。だからこそ、今、自分にできることをやるという意識につながる。
○また、体調に格差があるため、体操よりお口の体操で認知症予防に備えている。
○押し付けがましくせず、気持ちよくサラリと行動できる関係を大切にしている。
○みんなが高齢になってきて、なかなか身体がいうことを聞かないこともある。近所で助け合って、具合が悪いときはみんなで声を掛けあうことが大切である。
○皆さんも「助けられ上手」になるということがポイント。遠慮しないで「お願い」と言える間柄になれることが望ましいと思う。家に醤油がなくなっても「貸して」と言える間柄。何でも気持ちよく「手伝うよ、貸すよ」と言ってくれる関係が大切である。
○一緒にお茶を飲めて、すごくためになる話も聞けて助かっている。
○家族と住んでいるといっても昼間は一人、結局お隣さん、ご近所さんにお世話になることが多い。自分でできることは自分でして、なるべく人の役に立つことをしていくように心がける。
○地区の民生委員がなごみ会の会員になってくれたことで、民生委員との連携も出来ている。

――――――以下は、活動事例の「その後」の調査内容――――――

■事例調査後の新たな動き

○アコーディオン奏者の先生をお迎えして、年６回大声を発する喜びを感じながら楽しんでいる。
○会員のほとんどが後期高齢者になり、支援が必要となってきた。
○新たに、「歌声喫茶」。
○「声かけ」・「見守り」「支援（話し相手・相談等)」。
⇒民生委員は大変なので、ただ、民生委員の邪魔にならないように、会員同士で解決できるようにしている（必要な機関につなげる)。
⇒物忘れの進行した方の話し相手となり、寄り添いながら支えとなっている。
⇒ひとり暮らし・高齢者世帯への相談及びアドバイスを行っている（地域包括支援センターなどにつないでいる)。

■地域への活動の輪の広がり

○活動が少しずつ浸透している。「声かけ」「見守り」等に心がけるようになってきている。
○活動をとおして、お互いが癒されている。
○「なごみ会」をとおして、世代間交流会に、アコーディオン奏者の先生及びマジシャンの方々に依頼している。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

〇町内会に回覧し数回呼びかけしたが、なかなか入会につながらないため、会員が個々に声かけをしている。

■関係機関・協力団体・連携団体など

〇佐倉地域包括支援センター：高齢者の相談・支援。
〇栄町町内会：情報交換、世代間交流会の共催。
〇子ども会：情報交換、世代間交流会の協同参画運営。
〇民生委員・児童委員：情報提供、世代間交流会への協力依頼。

■課題と今後の展開

〇もう少し若い方が入会し交流ができると良いと思うが、現状では難しい。また、高齢者の方ももっと気軽に入会できるよう努力したい。
〇お互いに強制されてやるものではないため、楽しく活動することを基本として、継続していきたい。
〇会員が高齢になり、退会者が出るのも当然のこと。数人が入れ替わりつつも、現在は15名を保っている。
〇入会の呼びかけをしても、入会に結びつくのは数年かけて数人に一人。
〇活動が「支援」になると個人情報を守るため、町内会員に話せない点が、「何をやっているか分からない。活動が見えない」につながる。
〇ここ数年内には、町内会だけの募集では会員の減少は目に見えている。今後どう広げていくかが今後の課題。
　以上のことを踏まえて検討していく。

平成 30 年６月～８月に行った、活動事例の「その後」の調査結果の主なものを、下線で表示

【事例４】　（当初調査日：平成２６年９月１日）

事例名	「朝のあいさつ・声かけ運動」
地域	根郷地区
実施主体	根郷地区民生委員・児童委員協議会（会長　小林　眞智子）
活動要約	小学生の朝の登校時の挨拶、地域と学校の連携
主な分野	「子どもの見守り」、「地域づくり」
主な関係者	根郷小学校区まちづくり協議会、自治会等

■活動のきっかけ・経緯

○平成 20 年、21 年に千葉県民生委員・児童委員協議会から指定民児協の指定を受けた。その活動の中で、子どもたちの見守り活動については、夜間のパトロール等はあったが、朝の活動は少ないことに気づいた。

○平成 23 年５月に民生委員の強化週間があり、１週間、朝のあいさつ運動を行った。それをきっかけに、毎週月曜日の朝、活動を始めることとなった。

○根郷地区は 15 地区あり、当時は、地域ごとに温度差があったが、今はまちづくり協議会もでき、学校区単位で組織ができた。点の活動が線の活動につながった。

○現在、根郷小学校、寺崎小学校、山王小学校でも地区の民生委員が朝のあいさつ運動を行っている（寺崎小は、子どもたち自身が民生委員と一緒にあいさつをしている）。

■活動内容

○毎週月曜日の朝、根郷小学校にて、登校中の児童へあいさつ、声掛けをしている。

○民児協のメンバー・元民生委員で行っている。

○学校周辺の掃除なども行っている。

■ポイント・工夫している点

○あいさつすることで、子どもや保護者に顔を覚えてもらえるので、地域に帰ったときもあいさつが交わされる関係性が構築される。

○あいさつの際には、子どもたちの様子についても気にかけている。不登校気味の子どもや転校したばかりで馴染めない子どもなどは特に注意している。

○民生委員の活動で把握できる子どもたちの範囲には限界があるが、この活動を通して、普段関わることのできない子どもたちと知り合うこともできるので、民生委員の活動にも結び付くものがある。

○民生委員としてではなく、近所のおばさんとして向き合うことを意識している。そうすることで、気軽に話しかけられやすい関係が構築される。

○寺崎小学校では、6 年生が迎える側になって挨拶をしている。子どもたち自身が行うことで、自主的な成長にもつながる。

○学校側とも信頼関係が構築され、お互いに何かあれば連携のとれる関係性が構築できた。

〇子どもと一緒に危険な箇所を確認する地図を作るなど、子ども自身が学ぶことも大切にしている。ただ見守るだけではなく、子ども自身の成長を促すことも必要と考えている。
〇地域で子どもを見守り、地域ぐるみで子育てを行うことで、子どもだけでなく、その保護者も巻き込むことができる。次の世代になったとき、今の保護者たちが、自分たちと同じように活動してくれる仕組み作りが出来ればよい。
〇地域の中で育てられているということを感じてもらうことで、子どもたちにも生まれ育った「ふるさと」への愛着や地域を大切にする気持ちを育ててもらえたらと思っている。
〇民生委員の活動では、いつも「つなぐ」ということを意識している。自分たちの活動だけでは限界があるが、その活動により結びついた人たちにより、新たな活動が始まる。また、人がつながることで、地域もつながる。
〇活動は、無理せず楽しむことが大切。そのため、強要はしない。また、任せたことに対しては、信頼してすべてを任せるよう心がけている。

――――――以下は、活動事例の「その後」の調査内容――――――

■事例調査後の新たな動き

〇「朝のあいさつ」を続けることで、子どもだけでなく、保護者とも顔の見える関係ができてきた。
〇６年生が卒業間近になると、校門で朝のあいさつ運動に加わり、ほうきを持って美化活動をしている。
〇根郷地区民児協の「朝のあいさつ・声かけ運動」は、根郷小・寺崎小・山王小の各校門や、危険個所に立って声かけや安全の見守り活動をしているが、各小学校の取組はそれぞれで、寺崎小では、６年生が一緒にあいさつ運動をしている。
〇先生方と会う機会が多いので、学校との信頼関係もでき、日頃から情報交換が出来る。
　⇒気になる親子に「ねっこの会」（学習支援＆居場所づくり）を紹介してくれたり、不登校気味の子に情報交換している。
　⇒学校の行事へのお手伝い（校外活動の安全見守り等）、気軽にお願い出来る関係ができた。
　⇒わざわざ学校に出向くというより、日頃から気付いたことを言える関係（早期解決）。

■地域への活動の輪の広がり

〇近隣の住民が、バスで登校する子ども達を学校まで見送ったり、横断歩道で旗を持って安全指導をしている。
〇各地区で下校の安全だけでなく、朝の安全を見守る活動が地区で増えてきた。
〇朝のあいさつ運動をしながら、学校の周りや校内清掃をしているが、私たちの月曜日の活動以外にも、桜並木の草取りや校門周辺の掃き掃除の活動が生まれた。
　⇒学校の近隣地域の元民生委員・児童委員が横断歩道での見守りや環境整備活動をしている。
　⇒根郷小だけでなく、山王小、寺崎小でも、元民生委員・児童委員やまち協委員が毎日安全指導を

している（今ではＰＴＡの方も参加）。
○学校だけでなく、スーパーや道で会った時にも、自然に「こんにちは」「さようなら」のあいさつが交わされるようになった。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

○各種団体の集まりの中で、それぞれの地区の状況や活動を紹介し、参加を呼びかける。
○根郷地区は、学校やＰＴＡ、社協、民児協、住民会議、まち協、各関係機関等の連携がとれているとは思いますが、地区によっても、また、個々の民生委員・児童委員にもかなり温度差があるので、それぞれの会議等でＰＲ活動や事例発表を通して全体の底上げを図る。

■関係機関・協力団体・連携団体など

○学校でのふれあいボランティア。
　⇒多くの民生委員・児童委員が参加している。
○まちづくり協議会の青色パトロール。
　⇒民児協や地区社協も構成団体で、民生委員・児童委員が青色パトロールで登校時・下校時巡回。
○各地区の防犯パトロール（スクールガードボランティア）。
　⇒各地区の防犯組織に働きかける、地区の民生委員・児童委員が各地区防犯組織のメンバー。
○学校・ＰＴＡや地域の防犯との連携による通学路の安全点検。
　⇒まち協に学校、ＰＴＡ、学区の自治会、各種団体が参画しているので、通学路点検、交通量測定等を実施し、市や警察の申請書を提出。
○佐倉市防犯ネットワーク会議に根郷地区からも防犯関係の各団体が参加して情報交換している。
○根郷小学校区まちづくり協議会との連携の中で、防犯講習会や各地区の合同防犯パトロールを実施する際、警察や危機管理室職員の指導をいただいている。

■課題と今後の展開

○各地区で活動にばらつきがあるので、根郷地区全域に活動を普及させていきたい。
　⇒根郷地区では、根郷小・寺崎小・山王小学校区で、あいさつ運動だけでなく、地区でのガードボランティア、ＰＴＡによる交代での下校時見守り、まち協の青パトによる登校時、下校時の見守り、月初め（集団登校）の先生方の安全指導などパトロールが広がった。
○民児協だけでは限界がある。根郷小学校はまち協ができたことで、小学校が核となって防犯・防災活動が充実した。今度は、近隣の地域とも協力していきたい。
　⇒まち協による近隣地域との連携（各地区の取組の情報交換や防犯未実施地区への応援）。
○自治会で根郷地区の特産品であるこんにゃく作りも始めた。根郷の文化も後世に残していけたらよい。
○根郷小学校では、学期に一度、「安全対策会議」を開催し、各種団体の代表が出席し、情報交換。
　学校、家庭、地域が必要な情報を共有できるネットワークの構築。

⇒根郷小では学期に１回、「安全対策会議」学区の１５地区長。子供会、関係の各団体が出席し、地区の危険個所や子どもの様子等、情報交換、学校からの注意事項などを共有している。

〇見守りも重要だが、子どもたち自身が自分で身を守ることの大事さを学ぶ研修会の実施。

⇒平成 30 年度は、夏休み前の７月 18 日（水)、根郷小の児童を対象に、「防犯講習会」を根郷小、根郷小まち協共催で実施した。

平成 30 年６月～８月に行った、活動事例の「その後」の調査結果の主なものを、下線で表示

【事例５】　（当初調査日：平成２６年９月２日）

事例名	「染井野ふれあいサロン」
地域	染井野と周辺地域
実施主体	染井野ふれあいサロン（担当　幡野　多恵子）
活動要約	地域住民の交流の場となるサロンの運営
主な分野	「住民交流」、「世代間交流」、「地域福祉」
主な関係者	そめいの 21 会員・地域住民・町内会・各種サークルなど

■活動のきっかけ・経緯

○地域の在宅福祉支援活動を展開するグループ「思いやりヘルプサービスそめいの２１」を立ち上げたが、まだ活動そのものが認知度の低いことがあってあまり活動がなかった。
○四街道市にサロンをやっているグループがあると聞き、見学に行ったところ、即座に「自分達もやりたい」となって発足した（平成 10 年 10 月）。
○開始に際しては、時間貸しの集会所を、準備・片づけも含めて一日借りる折衝が大変だった。その当時は、有償のボランティアグループというのは暇な奥様達が趣味の一環として行っているような捉えられ方で、認知度や理解度がまだ低かった。
○営利ではないのになんでお金をとるのかという声もあった。社会福祉協議会から推薦状をいただき町内会長に挨拶に行き、いろいろ手紙を書いて理解を得るよう努めた結果、集会所を使って良いという許可を得ることができた。

■活動内容

○毎月第１火曜日に染井野中央集会所にて「染井野ふれあいサロン」を開催（午後１時～４時。利用料 200 円）。
○サロンは高齢者の引きこもりを防ぎ、知らない人同士の出会いの場になる。小・中学生や他の地域に住んでいる人など、誰でも利用できる。
○年１回、大型バスを借りて「お出かけサロン」を開催。
○もうひとつのサロンも開催している（毎月第２・４金曜日　13：30～15：30、臼井南中）。

■ポイント・工夫している点

【運営・ボランティアについて】
○無償で手伝ってくれる多くのボランティアが関わっている。ケーキを趣味で作っている方達は、趣味の域を超える腕前で作ってくれる。
○誰もが得意なことと不得意なこととがある。得意な分野で関わってもらうという姿勢を大切にしている。無理をしないで続けるというのが一番大切。
○ボランティアとしてここに来ると、何か多少なりとも役にたっているかなと思えるし、自分もここに来て元気をもらっている感じになる。お世話しているというより、こっちが刺激を受けていること

もある。
〇毎月皆さんと元気に顔を合わせて賑やかな時間を過ごせるというのは生きがいと言える。
〇無理しないで休むときは休んで、またできるようになったらやってもらう。両親のことでしばらくは関われなかったけどまた復活したという方もいる。ボランティアは無理をしたら続かない。
〇特別なことをしているという意識はない。自分達も楽しむ。
〇翌月の打ち合わせと合わせて毎回必ず反省会を行っている。最初の頃は、本当にいろいろな意見がたくさん出た。展示コーナーや手作りコーナーは、反省会の中で出た意見から始まった。
〇１人で来た方はなかなか友達ができないという場面を見て、何かを作るコーナーがあると自然と友達になれるんじゃないかということで、手作りコーナーが始まった。
〇１月は花びら餅、２月はお汁粉、８月が白玉あんみつ、10 月の記念式典がちらし寿司というように季節の料理、お菓子を提供して楽しんでもらっている。

⇒何よりもボランティアは無理をしないで、自分の都合最優先で関わってもらっている。でも、現在十数年のベテランボランティアさんが多く、完全にそれぞれの仕事を任せているので、お休みの時はちょっと大変。

⇒ボランティアさんの年齢もサロンと同時に上がってきているので、ちょっと体力的にきつくなってきている人がいる。それでもやりがいがあるのでイキイキと参加してくれる人が多い。

⇒毎月の展示コーナーは 18 年経っても、新たなご趣味の展示者が見つかるのがすごい。いろいろ勉強になる。

【集客について】
〇お年寄りの方が病院の待合室で話を聞いたとか、人づてに広がっていく。
〇この地域は、他所から来た人達ばかりなので、昔からの知り合いというのはいないが、お互いに誘い合って来るというケースが多い。
〇自分の家にお茶に呼べなかった人達が、ここで電話番号を交換しているという場面を最初の頃は良く見かけた。
〇高齢になってからここに引っ越すと、つながりが全然ないので、引っ越して来てから３年間全然家から出てこない方も中にはいた。
〇展示コーナーも、最初は来ている方の昔の趣味の物を借りてやったが、だんだんと広がって、「ご近所にこういうことやっている方がいる」とか、知っている人に声をかけるようになり、ネタが尽きることがない。
〇展示する方は、何ヶ月も前から準備したり何にしようかとか、生き生きしている。お年寄りの方が展示コーナーをやるということはすごく良い。

⇒お一人暮らしが多くなってきたので、ご家族のいる時は遠慮されていたご近所の方が声をかけて連れてきてくださる事が多くなった。

⇒男性はなかなか一歩が難しいが、趣味の展示をお願いしたりして参加されるきっかけを作っている。

【お出かけサロンについて】
〇いつものサロンだと席が固定されてきてしまうが、お出かけサロンでは、食事のときには、くじ引きで席を決めて、スタッフも入り混じって、みんなで食べる。そうすると、今まで話していない人とも知り合いになって、翌月のサロンで仲良くしていたりする。どの方ともお話ができるような感じになる良い事業だと思っている。
⇒以前は、いろいろ下見をして佐原や美術館などを計画したが、ここ数年は「工場見学＋ホテル等でランチ＋道の駅等の買い物」コースで、佐倉市福祉バスで出かけている。ちょっと学べてお土産付き、何より安全なので好評。ただ福祉バスが抽選で申し込みが多く、なかなかバス確保が難しい。

【もうひとつのサロン】
〇集会所を１日中長く使うということを月２回もというのはたぶん無理ということで、「もう１つのサロン」を、臼井南中を会場に立ち上げた。
〇そちらはお客様をおもてなしして、なるべく楽しんでもらうようにというのではなく参加型のサロン。いろいろ体操もするし、ゲームをしたり自分達で盛り上げていく。立派なお菓子とかはなく、出来合いの飲み物をほとんどセルフサービスで提供する。サービスを受けて楽しむのではなく参加して楽しむというコンセプトにしている。頻度も倍で月２回開催している。
〇ふれあいサロンと補完し合って、ニーズに合わせて使い分けていただければと思っている。なるべくお家に籠らないようにという姿勢でやっている。
⇒「もうひとつのサロン」で知り合われたお仲間で集まり、お喋りをする場に来訪されるようになった。

――――――以下は、活動事例の「その後」の調査内容――――――

■事例調査後の新たな動き
〇下記「地域への活動の輪の広がり」の項目に記載。

■地域への活動の輪の広がり
〇町内会と相談の結果、サロン時に使う道具類収納のための倉庫設置が許可され、庭横に設置した。
〇サロン時使用の食器・スリッパ・おりたたみ机等は、集会所備品とし、町内会と共有することになった。
〇毎年総入れ替えとなってしまう町内会集会所委員の方々が、サロンについて引継ぎ申し送りをしてくれるようになった。
具体例として、地域の方々の作品展示を毎回行うにあたり、ピクチャーレールを取り付けさせてほしいと数年お願いしていたが、集会所備品として設置して頂けた。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

〇下記「課題と今後の展開」の項目に記載。

■関係機関・協力団体・連携団体など

〇上記「主な関係者」を参照。

■課題と今後の展開

〇今、家に籠っている方を少しお誘いして、ご近所の顔がわかるような感じにしていきたい。

〇サロンに来ている方が今月は来ていないと、毎月名札で出席を取っているので、気になったりする。見守りという訳ではないが、高齢化率がだんだん上がっていくと、いずれそういう機能を持つようになるかなと考えたことはある。

⇒現在見守りを必要とする方はほとんどいないが、年を重ねてきた来訪者の変化には気を付けている。声をかけたり、お迎えに行ったりしている。お一人若年性アルツハイマーの方をメンバーが誘って来訪し、お茶をしたり手作りコーナーに参加したりしている。

〇この地域に育てられた感じのサロンなので、こちらから地域をどうこうという意識はあまりない。無理なくぼちぼちと続けて行きたい。

〇大雨だったときに来た方が「雨でも来ますよ」と言ってくれたことをずっと覚えている。そういう方達にこちらが支えられて育てられていると思う。

〇若い世代のボランティアの参加。それでこそ継続性が担保できるので、参加してきて欲しい。

〇当日参加してくれるサロンボランティアの高齢化。来訪者と年齢が同じになり、体調不良などで休む人が増えた。若いボランティアが入らない。

⇒やはりご自分の意志で参加されることが一番なので、募集は常にしているが強引に誘うことはしていない。

⇒どうしても今のようなサロンを続けていく…という考えよりは、いかにみんなが無理をしないでできるサロンにするか常に相談し、楽にできる方向で考えている。

平成 30 年６月～８月に行った、活動事例の「その後」の調査結果の主なものを、下線で表示

【事例６】　（当初調査日：平成２６年９月４日／１０月７日）

事例名	臼井小学校下校時見守り／いきいきクラブたぐり
地域	臼井台地区（臼井台区、大名宿、ニッコー団地、野口会町会）
実施主体	台町子ども見守り隊（臼井台区：渡邉　正男、大名宿町会：宇田川　光三）／いきいきクラブたぐり（代表　立原　千代子）
活動要約	小学生の下校時の見守り／地域活性化の場となるクラブ活動
主な分野	「子どもの見守り」、「地域づくり」
主な関係者	自治会・町内会、民生委員・児童委員等

■活動のきっかけ・経緯

【台町子ども見守り隊】

〇大阪の池田小学校の事件をきっかけに、臼井台区と大名宿町会の住民有志が集まって活動を始めた。

【いきいきクラブたぐり】

〇臼井台地区の防犯パトロールをきっかけに結び付いた４町会の有志と民生委員で始めた。

〇現在代表を務める方の母親が高齢になり、家に閉じこもりがちになることを心配し、同じような悩みを抱える方とともに、高齢の方が集まれる場所づくりをしようと呼びかけて活動が始まった。

〇現在も４町会の有志ボランティアとして協力し活動している。

■活動内容

【台町子ども見守り隊】

〇臼井小学校生徒の下校時に、毎日通学路に立って、子どもたちの見守りを行っている。

【いきいきクラブたぐり】

〇臼井青年館を会場に、原則 75 歳以上の方を対象に、年間計画に基づき、毎月テーマを決めて、介護予防講習や地域の中学生との交流、みんなで歌を歌ったり、おやつを食べての談笑など、気楽に参加できる会を目指して活動している。

■ポイント・工夫している点

【台町子ども見守り隊】

〇「無理せず、楽しく」をモットーに自主的参加を何年も続けているので、小学生だった子どもたちが中学生、高校生、大学生、社会人になっても挨拶を交わしてくれる。

〇活動をする中で、メンバーどうしだけでなく、地域住民とのつながりも増えてくる。道で会った人と自然とあいさつを交わすことで会話も生まれ、人とつながることへの面白さを感じてくる。最初は義務感で来ていた人も、徐々に活動の楽しさ、やりがいを感じ、今では毎日かかさず参加している人もいる。子どもたちのために始めたことが、自分にとっても欠かせない活動へとなりつつある。

【他の活動への広がり：防犯パトロール・臼井西中学校の草刈り・剪定作業】
〇臼井小学校下校時見守り活動などをきっかけに、まちのために少しでも貢献しようという意識が芽生え、地域の他の活動にも関わってみようという人も出てくる。臼井台地区４町会で行っている「臼井台地区防犯パトロール」にも、「台町子ども見守り隊」の多くの方が参加している。
〇さくら防犯パトロールネットワークは平成 15 年２月に結成され、防犯団体を増やすことが犯罪抑止につながることから、臼井台地区も同年５月に「臼井台地区防犯パトロール」を結成し現在に至っている。
〇臼井西中学校区の町会等で、年２回同校の草刈り・剪定作業を実施しているが、このボランティアにも「子ども見守り隊」や「臼井台地区防犯パトロール」の多くの方が参加している。

――――――以下は、活動事例の「その後」の調査内容――――――

■事例調査後の新たな動き

【台町子ども見守り隊】
〇下記「地域への活動の輪の広がり」の項目に記載。

【いきいきクラブたぐり】
〇下記「地域への活動の輪の広がり」の項目に記載。
〇「台町自主防災会」が主催するクイズ形式の「机上災害体験」を、「いきいきクラブたぐり」の定例行事（５月）に高齢者向けに実施している。

■地域への活動の輪の広がり

【台町子ども見守り隊】
〇佐倉市のまちづくり協議会である「臼井ふるさとづくり協議会」の防犯交通部会を通じ、臼井小学校区内の町会・自治会・区の「子ども見守り隊」と「臼井小学校」、ＰＴＡが連携し、年３回、意見交換を行い、情報を共有している。
　臼井小学校区の見守りボランティアメンバーが共通の名札を着用して行う見守り活動は徐々に裾野が広がっている。台町では、毎年、５月に地域の会館で新１年生・保護者と見守り隊との顔合わせや交流会を実施している。下校時、臼井西中生徒との挨拶も生徒の方からしてくる様子が多々見られるようになった。
　台町をはじめ臼井小学校区での犯罪発生件数の大幅な減少や不審者が出にくいことは、子ども見守り活動や防犯活動の連携がその一翼を担っていると思われる（佐倉警察署）。

【いきいきクラブたぐり】
〇平成１５年４月に「いきいきクラブたぐり」を創設してから１５年目を迎え、高齢者のたまり場・憩いの場として地域に定着している。４町会（臼井台区、大名宿町会、ニッコー団地町会、野口会町

会）の協賛するボランティア活動であることもあり、他のボランティア活動にも好循環がでている。

⇒いきいきクラブたぐりの参加メンバーには、４町会の町会長、民生委員などもおり、この方たちの大半が、同じく４町会で共同している「臼井台地区防犯パトロール（登録人員 105 名)」の主要メンバーになっている。また、メンバーの大半が、臼井西中の年２回の草刈り・剪定作業に参加している、など。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

【台町子ども見守り隊】

○見守り隊のメンバーが経験に基づき、見守り活動の楽しさ（社会参加）を隣人・知人等に語る一本釣り効果がある。その他、適宜、町会の回覧等でも呼びかける。

【いきいきクラブたぐり】

○回覧等で募集して効果があまりないことから、会員による、いわゆる「一本釣り」が現実的である。

【事例共通】

○参加呼びかけは、広報誌や回覧で行っているが、新規加入者はほとんど、メンバーが個々に呼びかけたことによる（一般的に、一本釣りと言っている)。

■関係機関・協力団体・連携団体など

【台町子ども見守り隊】

○臼井ふるさとづくり協議会（通称「臼井まち協」）

⇒臼井まち協には、臼井小学校区の９つの町会があり、それぞれの子ども見守り隊が統一の名札を着用するなど日常から連携している他、見守り隊代表が学期末の年３回、「台町子ども見守り隊」が参加する臼井ふるさとづくり協議会防犯交通部会で「アイアイ会議」を開催、学校（校長、教頭)、ＰＴＡ代表と子どもの安全・安心に関することや、挨拶など「社会規範」等について意見交換を行い、情報を共有している。

⇒「臼井まち協」では、毎年、寸劇による「子ども防犯教室」を開催している。この寸劇には、「台町子ども見守り隊と各町会の見守り隊有志」及び佐倉警察署、佐倉市役所有志が参加している。今年度は第 13 回を迎えている。

○臼井小学校

⇒学校の関わりとして台町子ども見守り隊も参加する「臼井まち協」では、この他、５・６年生を対象に「交通規範・犯罪抑止」に関する「標語」を募集、選考委員会で毎年、６標語を選抜（１標語×10 本)、「のぼり旗」に同標語を掲載、７月から全町会のエリアと臼井小の正面玄関内に掲出している。

○臼井西中学校

⇒下校時、台町子ども見守り隊と挨拶の励行に勤めている。台町子ども見守り隊の多くが、５月と

８月の臼井西中の草刈り・植木の選定作業に参加している。

※なお、臼井西中の草刈りには、「臼井まち協」の各町会の他、近隣町会も参加している。

〇臼井小学校ＰＴＡ

⇒登下校時、朝はＰＴＡ、下校時は子ども見守り隊が行っているほか、「臼井まち協」にも参加している。

〇佐倉市役所自治人権推進課

⇒「臼井まち協」は、佐倉市の市民協働推進条例に基づく最初の認証団体となっており、のぼり旗作成費用は佐倉市の補助金による。

⇒「台町子ども見守り隊」をはじめ、「臼井まち協」の子ども見守り隊等が参加し、毎年開催している（平成30年は６月８日第13回)、「子ども防犯教室」の寸劇にも、「佐倉市役所自治人権推進課」職員有志が参加している。

〇佐倉市危機管理室防犯・安全安心対策班

⇒「台町子ども見守り隊」をはじめ、「臼井まち協」の子ども見守り隊等が参加し、毎年開催している（平成30年は６月８日第13回)、「子ども防犯教室」の寸劇にも、「佐倉市役所危機管理室防犯・安全安心対策班」職員有志が参加している。

〇佐倉警察署

⇒上記の「子ども防犯教室」の寸劇には、佐倉警察署移動交番の署員が毎回、不審者役等で参加している。また、のぼり旗に佐倉警察署の名を記載。

〇佐倉警察署管内防犯組合連合会

⇒上記の「のぼり旗」以外に、子ども防犯教室の各町会エリアに「防犯・交通規範」等の「のぼり旗」を提供していただいている。

【いきいきクラブたぐり】

〇年間計画に基づき、毎月、各方面に要請・支援を受けている。

①臼井・千代田地域包括支援センター

⇒年間計画の中で、毎年、10月に同センターによる「高齢者に関わる諸課題」について話をいただいている。

②佐倉警察署移動交番

⇒年間計画の２月に毎年、「移動交番」署員により、「振り込め詐欺防止」の寸劇と高齢者の交通事故防止の講話を受けている。

③臼井西中学校

⇒年間計画の11月に毎年、中学生（30人程）が企画したゲームやクイズ、園芸、茶話会等を実施している。

④佐倉市食生活改善推進員

⇒年間計画の10月に、推進員による食生活改善の食事をする。

⑤各種ボランティアグループ

⇒毎年、企画の段階で、メンバーまたは近隣で活躍するボランティア団体（例：笑いヨガ・ミュージック、民話：さくらっ古、台町踊りの会：弥喜の会、二胡の会、台町：ひのき太鼓、食生活改善推進員、手話ダンスの会、福祉劇団　榮ちゃん一座、、、、）に呼びかけ、定例行事に参加してもらっている。

■課題と今後の展開

〇現在活動に参加している人だけでやっていくのではなく、いろいろな人を巻き込んでいくことを意識している。

〇会社勤めの人も定年を迎えると地域に還ってくるが、何かきっかけがないと家に閉じこもりがちになってしまう。そういう人の掘り起しをしていきたい。

【台町子ども見守り隊】

〇どの分野でも「高齢化」がボランティア活動の活動・維持に意欲を阻害されがちであるが、高齢化時代をプラス思考に捉え、元気な高齢者が子どもたちの安全・安心確保の一翼を担う気構えをもって見守り活動を推進したい。

【いきいきクラブたぐり】

〇７５才以上の方も、ボランティアとして参加している人も一律に「会員」として登録しており、区別なく共に楽しむことを心がけているが、さらに高齢者と若いボランティア会員を募っていきたい。

⇒佐倉市社会福祉協議会のボランティアセンターには登録していないが、表彰を受けたことがある。佐倉市市民公益活動団体に登録している。

平成30年6月～8月に行った、活動事例の「その後」の調査結果の主なものを、下線で表示

【事例7】　（当初調査日：平成２６年９月２０日）

事例名	「ちゃれんじどフィットネスクラブ」
地域	市内全域（会場：志津コミュニティセンター、中央公民館他）
実施主体	佐倉市手をつなぐ育成会（会長　久保田　洋一）
活動要約	発達に支援の必要なこども・おとなのための健康づくり運動教室
主な分野	「障害児・障害者支援」、「ボランティア」
主な関係者	順天堂大学スポーツ健康科学部、佐倉市等

■活動のきっかけ・経緯

○「障害のある子どもや青年達が楽しく体を動かし、元気にいきいきと暮らせるようにしたい」という佐倉市手をつなぐ育成会会員の思いに基づき、順天堂大学スポーツ健康科学部と佐倉市の協力を得て活動がスタートした。

○元々は、育成会の中で休日に軽くお散歩して体を動かすことを目的として「お散歩会」というのを２年ぐらい行っていた。

○育成会会長が順天堂大学の元教授であり、学生ボランティアにも声をかけられる、そこから会員以外の方々にも関わることができるということから、順天堂大学に協力を依頼して始まった。

○障害のある子ども達は、どうしても学校と放課後の事業所の往復になりがちで、地域の人と関わったり、運動したいと思っても一般的なスポーツクラブやスイミングスクールに通うのはなかなか難しい。仲間内なら出てこられる、少し大変でも一緒にやってみようという気持ちができればと思い、活動が始まった。

■活動内容

○月２回程度、市内公共施設にて、発達に支援の必要なこども・おとなのための健康づくり運動教室を開催している。

○順天堂大学の学生ボランティア、佐倉市ボランティア連絡協議会の方々にも協力していただき、運営を行っている。

■ポイント・工夫している点

○モットーは「ほめること」。叱らず無理せず、まずは子どもに笑顔になってもらうことを大切にしている。それから、専門家のアドバイスのもと、個に応じて動く量（はう、歩く、走る、跳ぶ等）を少しずつ増やしていく。

○応用で、道具を使うこと（ボールを投げる・つかむ・打つ、フープをくぐる・回す・跳ぶ・またぐ、マットで転がるなど）を楽しむようにしている。

○障害の重い子でも、それぞれに合った体の動かし方で楽しく参加できるようにしているし、色々な障害の方も受け入れて活動している。育成会にとっては自然なことで、子どもと大人も色々な障害の方を自然に受け入れている。

○午前中２時間、親子でじっくり運動したり、学生ボランティアと一緒に遊んだり、ボールなどを使って体を動かすことは、家ではなかなかできない。定期的に運動を楽しめる場となっている。
○順天堂大学、同大学院、日本体育大学等の学生ボランティアも一緒に活動し、多くの人の関わりの中で楽しめる活動にしている。
○学生ボランティアも、支援学校の先生になりたいと思って積極的に来ている方と、よくわからないけど来てみて戸惑いながらやっている方といるが、戸惑いながらやることもお互いのためになると思っている。
○知ってみようと思う気持ちをお互いに持っていれば、分かりあえるかなと思うので、興味がなかった方とか障害児に全然接したことがない方にきてもらうこともありがたい。
○人と関わることが苦手な子どももいるので、そうした子どもの場合は、毎回同じボランティアについてもらってじっくり関わってもらう。個別的な支援も配慮しながら行っている。
○個人がいきなり大きなコミュニティの中に入っていくのは難しいし、特に障害のある子どもだとなお更だが、この活動を通して、仲間内でやっている活動が楽しいとか、また、そこに外部の人が入ってきて理解してもらったことが嬉しいという気持ちが持てるようになる。そうすると地域での生活でも自分の気持ちが出やすくなる。

【育成会について】
○育成会は、同じような苦労をしていたり、同じような小さな喜びを見つけられる仲間の存在を確認できる場。障害の状態もそれぞれ違う会なので、より深い想いを共有できるし、深いつながりができる。
○会員だけの内向きの会ではなく、外に向けてオープンなイベントもいろいろとやって、みんな辛いときには繋がっていければいいねという会でありたいと思っている。

【学生ボランティアの話】
○トレーナーになりたいという夢があって、また、障害者の方の運動に関わりたいという想いもあった。授業で障害について学んでいたが、実際に会ってみないと授業で学んだことが活かせないし、関わる場があればと思って参加している。
○この活動では、自閉症の子どもをつきっきりで見ている。どういう症状があるとかどういう障害なのかというのは知っていたが、自分がどういうアプローチをするかというのが全くわからなくて、最初は全く心を開いてくれず、無視されて避けられていたが、ある時を境に、何がきっかけかはわからないが、急に抱き着いて、すごく良い笑顔をしてくれた。それからはずっと手を離さないでいてくれるようになった。
○「こんな感動があるんだ」というくらいに感激した。自分が一生懸命伝えようと関わった時に、相手から返ってきた喜びというのは、福祉への関わりとかを抜きに、一人の人間として人と触れ合う喜びがここにある、純粋にそういう気持ちになれた。
○関わり方というと純粋に１人の人として関わるだけで全然大丈夫だなと感じた。障害者と関わった

という気は全然ない。子供達と普通に遊んでという感じで来ている。専門的な知識とかそういうのではなくて普通にただ子供達と触れ合うという感じで来ている。専門的な知識も必要な部分もあると思うが、関わるという点に関しては普通の素の自分で良いんじゃないかなと思っている。
○ここで何かを得ていて自分の中の何かの強みになっていると思うが、本当にここに来るのを楽しくて、どんな人でも人によって関わり方が違ったり、同じ障害だから同じように触れ合えば同じように返ってくるというものではないことを経験している。
○このボランティアを通して何かにという想いではやってない。自分の大切な思い出になるという感じでやっている。

――――――以下は、活動事例の「その後」の調査内容――――――

■事例調査後の新たな動き

○会員のみならず、隣接する市町村からの参加者も来るようになった。社会人運動指導者の方のボランティアが増えた。

■地域への活動の輪の広がり

○設立５年目を迎えたが、４年前より佐倉東部地区社協とコラボして、毎年２月に小運動会を実施している。今のところ、最大の地域交流となっている。高齢者の方は「『敬老の日』の催し物よりよほど楽しい」と言っていた。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

○活動の主旨、予定表などを書いたカラーのチラシを配布している。
○参加者が仲間へ入会の声がけをしている。
○特別支援学校の卒業生には特に声をかけている。

■関係機関・協力団体・連携団体など

○障害福祉課、順天堂大学、佐倉東部地区社協などと連携協働しているが、「手をつなぐさくら」さんにも協力をお願いしている（用具、指導、運営面などお世話になっている）。

■課題と今後の展開

○自分達の仲間を作りながら、なおかつ地域にもオープンにしていって、手伝って欲しいと気軽に言えるような会でありたい。
○直接的な支援はできなくても、心を寄せてもらうとか気にかけてもらうだけで違う。周りがそういうことを言ってくれる、自分も言えるという地域であるためにもこのような活動を続けて行きたい。
○課題は学生ボランティアの交通費の捻出である。手をつなぐ育成会で、１人当たり千円支給しているが…。障害者だけではなく家族や、他の健常者とも運動活動で交流の機会を増やしたい。

○市の体育指導員さんとの協働も考えたい。